

令和3年度知事定例記者会見[抜粋]

令和3年5月25日 知事定例記者会見[抜粋]

○西日本新聞

国交省と幅広い協議をしているんですけど、国交省の申し出で始まった協議なんですけど、10月の協議以降半年以上協議が行われていません。

これまでの協議内容と、話し合いが進んでいない現状についてどのようにお考えでしょうか。

○山口知事

うちの方はウェルカムというか、いつでもいいですよという話をしています。ちょっとコロナの関係で、ということがあって、ここのところ間が空いているんですけども、むしろ今、WEBでいいんじゃないかという話をしていて、国交省さんもそれについてはWEBでやれるのであればという話なので、近々WEBで幅広い協議、続きができそうということなので、その中で、それこそ全てのことについて協議をするということになっているので、さらに協議が進むことを期待したいと。

○西日本新聞

4時から与党PTがあるという話なんですけど、与党PTの場で財政負担の軽減策や並行在来線の維持について更に検討を進めるという内容が話し合われる予定のようなんですけれども、これに対して受止めはどのようにお考えでしょうか。

○山口知事

これはちょっと改めてお話をさせていただきたいんですけども、今回、なんかよく分かりませんが、私も深くは聞いていないんですけども、与党PTは基本的にアセスメントのフルということを前提としているという印象です。私に言わせると。

で、与党PTがその検討をしている中で、私も3回呼ばれて、一番申し上げたかったのは、佐賀県は在来線を使つての、例えばフリーゲージとか、スーパー特急については合意していて、前に進める準備はあるけれども、それ以外は何も決めていないし、手を挙げてもないっていう話をさせていただいたにもかかわらず、フル規格が適当というような、全く地元のことを無視したような結論が出て、しかも、その与党PTには、佐賀県の意見を代弁してくれる国会議員もおらず、ということなので、我々はそれについて極めて遺憾だ、ということはずっと言い続けているわけですよ。

で、今度は国、国交省さんが、それとは別に、要はそれには縛られず、与党PTに縛られない形で、佐賀県と幅広い協議をしたいと、これは赤羽大臣と話があったから、我々は、それは用意がありますよと。それはフルを含めて。

ただ、幅広くやらせてくださいね、ということだから、例えば、フルにしても、ルートの話だってアセスルートだけじゃなくて、海側だって山側だってあるわけで、そこはじっくりと数字を出してもらって、議論させてくださいねという、今向き合っている相手は、幅広い協議なんですよ。

なので、また与党PTからさっき言ったアセスルート・フルが前提だと思えない、そうじゃなければまた訂正してもらいたいんですけど、そういうような主張で、例えば佐賀県の主張を潰されても、元々そこに限定していないので、だから、凄い違和感がある。アセスルート・フルが適当だと勝手に言われ、そこに対する、佐賀県もいろいろ一つ一つ議会などで答弁していきますから、その問題点は言っていくんだけど、もっと大きな視点で、佐賀県は考えたいと思っているので、だから幅広い協議をしているわけです。

ということをご皆さんに分かっていただきたいと思います。

○西日本新聞

国交省は幅広い協議の一定の期限が必要という認識ですけれども、一方で佐賀県は期限を切って協議するべきものではないという立場です。

改めて、今後の協議が進んで、どのような内容になったら結論は出せるというふうにお考えでしょうか。

○山口知事

ですから、佐賀県にとっていい選択肢というものが出てきたら、それは合意します。

佐賀県も、これまでスーパー特急方式だとか、国からの、それこそ提案によってフリーゲージに振り替わって、そこまでは合意してきたわけですよ。

だから、合意することについて、佐賀県にとって説明ができて、ちゃんと将来の佐賀県民にも説明ができるようなことについては、合意する準備はあるけれども、あまりにも先ほど言ったような、決めつけたような形で、いつまでに、と言われても、新幹線というのは、地域振興の観点があって、そもそもは地元の要望に応じて、地元の理解のもとで進められるべきプロジェクトだと思っているんです。

国家的プロジェクトでやっていた東海道新幹線とか東北新幹線の時とはまた違う整備新幹線の手法であるんで、だから我々は、今までは、佐賀県内の武雄－新鳥栖間は在来線を通るというやり方で、これは私が知事になる前から、そこについては合意をしているわけです。

逆に言えば、それ以外については全く合意していないので、そこで、それを取って、いつまでに、と言われるのは、私は筋が違うと思います。

ですので、しっかりと佐賀県と向き合って、我々はフル新幹線を含めて幅広い協議をしていいと言っているわけですから、向き合ってもらいたいと思います。

令和3年11月2日 知事定例記者会見[抜粋]

○西日本新聞

最後に、西九州新幹線についてお聞かせください。

武雄温泉－長崎間の開業まで残り1年となりました。県内を見ていると、開業に向けた機運が正直高まっているようには見えません。知事は開業効果を活かさなければいけないということも発言しておりますけれども、今後どのように機運を高めて、具体的にどう生かしていこうとされているのか、考えをお聞かせください。

○山口知事

今、それこそ新鳥栖－武雄温泉間については幅広い協議というものを続けているわけでありませけれども、それがどうなるかというのはまだ見えないわけですが、少なくとも今の形のままで十数年はいわゆる乗換方式というものがあるわけで。ですので、これをどう生かすのかというのはとても大事だと思っています。

ちょうど今月は、来年行うDCキャンペーンの全国宣伝会議も行われるわけですが、武雄温泉駅から長崎駅間が、6割以上トンネルなんですけど、直行できるというところ、しかも、短時間ではありますけれども、非常に興味深い状況になるんだと思っています。

さらに、今回、JRさんも大村線と、あと、長崎本線を通して新たな特急を走らせるという計画も発表されましたし、そうした、今、西九州に行って、我々、長崎と佐賀の強みというのは、これまでずっと長い間培ってきた様々な伝統や歴史だったり、外国の窓口になってそれを活かしてきた、そして、それを商売にしてきた、それに関連する観光地も非常に多くあります。佐賀県の場合、先ほど説明したゲームやアニメとのコラボとか、そういったものもありますので、この西九州、伝統に裏打ちされた新しい、フレッシュな佐賀、長崎を見ていただくタイミングにぜひしたいと思いますので、これ、佐賀県だけでも、交付税措置抜いても260億円を投資しているんで、これはぜひとも回収しなければいけない。だから、佐賀県全県下回っていただく大きなきっかけにしなければいけないと思います。

今、様々な各地域の取組を、うちの交付金で後押しもしておりますので、その気持ちをみんなこの開業に向けてるように全力で取り組んでいきたいと思っています。

令和4年1月21日 知事定例記者会見[抜粋]

○佐賀新聞

九州新幹線長崎ルートについてお伺いします。

与党の検討委員会の委員長になられた森山裕さんが昨年末、就任後に知事にお

電話をしたということでしたが、知事に会ってお考えを聞きたいというような判断を示されています。それに関しての知事の所感をお願いします。

○山口知事

お会いしたいと思いますけれども、ちょっと私も今日の新聞を見て側聞したので、森山先生から直接聞いたわけではないけれども、お互いがしっかり理解し合わなければいけないというような趣旨だったと思います。

これまで与党PTもそうだし、国交省の「幅広い協議」でもそうだけれども、一本道みたいな主張だったので、協議という感じではなかったんですね。まさに、フルが適当だということで我々の主張を全く聞かずに、一顧だにせずと言いましたけど、その与党PT自体がそうやって柔軟にいろいろ話を聞いて考えていこうと言っていたという点については、我々もこれで少し本当に協議ができるのかなという期待を持ちましたが、実際、森山先生とは携帯で話をしましたけれども、そのときにはお互い早く会おうやという話だったので、それはいいですよということで。あとはタイミングですけれども、それは今コロナ禍でもあるので、いいタイミングを見つけていきたいと思っています。